

15:10~16:40

## シンポジウム8：手外科の国内研修・国際交流

座長：三上 容司（横浜労災病院 運動器センター）  
四宮 陸雄（広島大学 四肢外傷再建学）

### SY8-1 手外科・マイクロサージャリー研修病院の現況と問題点

Hand and Micro-Surgery Training for International and Domestic Fellows at the Ogori Daiichi General Hospital

土井 一輝, 服部 泰典, 坂本 相哲  
小郡第一総合病院 整形外科

1996年から小郡第一総合病院では国内、国外研修医制度を発足した。現在までに長期外国人研修医：40人、日本人研修医：34人を受け入れた。日本人研修医には医局制度を離れた専門臨床経験が可能であるが、外国人研修医には臨床面のみの研修は、外国人研修には実際は臨床面のみの研修は、外国人研修医には実際は手術助手と診療見学が主であり、患者診察、手術執刀、論文執筆を独自にできる環境づくりが課題である。

### SY8-2 形成・整形混合型の手外科専門施設での手外科研修に携わって

Hand surgery fellowship in ortho-plastic mixed-type institute

福本 恵三, 小平 聡, 岡田 恭彰  
埼玉慈恵病院 埼玉手外科マイクロサージャリー研究所

私は形成外科医で、形成・整形混合型手外科施設で教育に携わってきた。研修医は整形または形成外科専門医取得後で直接治療に関わる。手外科教育には整形外科はマイクロサージャリーを用いた再接着や皮膚軟部組織再建、形成は手関節より近位の骨関節外傷例を確保できるかが重要である。その為1年程度、混合型もしくは整形は形成、形成は整形施設で研修することが望ましい。形成・整形混合型の施設が増加することを期待する。

### SY8-3 NCGMにおける(スーパー)マイクロサージャリー外国人医師臨床修練：国際交流の勧め

International Clinical Training for Supermicrosurgery at NCGM: Recommendation of Aggressive International Activity

山本 匠  
国立国際医療研究センター 形成外科

海外著名施設の技術吸収および国際交流には、それらの施設で研修を済ませたマイクロサージャンを臨床留学生として受け入れる方法がある。当科では2017年7月-2020年1月に外国人留学生66名を受け入れ、受け入れ後も国際的交流が続いている。日本が誇るスーパーマイクロサージャリーは世界中の熟練マイクロサージャンから注目されており、日本にいても留学生を受け入れることで国際交流・手技習得が可能である。

---

#### **SY8-4** 小児手外科分野における海外臨床留学受け入れと国際交流 ～国立成育医療研究センターでの取り組み～

International fellowship for pediatric hand surgery at National Center for Child Health and Development

高木 岳彦, 山口 桜, 平松 みづ紀, 武谷 博明, 林 健太郎, 稲葉 尚人, 阿南 揚子, 関 敦仁, 高山 真一郎

国立成育医療研究センター 整形外科

当科は開院以来、多くの四肢先天異常や小児の変形治癒の手術に携わり、その分野においては世界的にも有数の症例数を扱う施設となってきた。グローバルな視点から、多様な価値観を認め合い、新たな風を取り入れるべく、海外臨床留学を積極的に受け入れる体制を整えてきた。有意義に過ごしてもらおうべく日々研修システムの改良に努めているが、当科における国際交流の現状をお話し、その意義についてディスカッションしたい。

---

#### **SY8-5** 聖隷浜松病院におけるHand Fellowshipについて

Introducing the Hand Fellowship at Seirei Hamamatsu General Hospital.

大井 宏之<sup>1</sup>, 向田 雅司<sup>1</sup>, 神田 俊浩<sup>2</sup>, 鈴木 歩実<sup>2</sup>

<sup>1</sup>聖隷浜松病院 手外科・マイクロサージャリーセンター, <sup>2</sup>聖隷浜松病院 上肢外傷外科

第53、58回の本学会で当センターのFellowshipを報告した。当センターは2004年4月からFellow採用を開始。現在まで28名(整形23、形成5)の医師を教育した。手外科全ての領域を網羅する教育のため整形・形成の区別なし。苦手を克服するように教育。ハンドセラピーも重点的に教育。問題は個々の基礎的な技量が大きく違うこと、研修を希望しても医局の問題があり研修に来られないこと、常時Fellow確保が難しいことなどがある。

---

#### **SY8-6** 新潟手の外科研究所における手外科研修システム

Hand surgery training system in Niigata Hand Surgery Foundation

坪川 直人

一般財団法人 新潟手の外科研究所

新潟手の外科研究所では手外科上肢専門病院を併設しており多くの症例を経験できる。新潟大学・他大学からの研修、短期研修コースがある。短期コースでは手術執刀はできないが助手として参加でき、短期間に骨折、神経、腱、血管などの多くの症例を経験できる。図書雑誌も充実しており、手外科の知識、診断力、手術に対する理解を深めることが可能である。またラットを用いたマイクロサージャリー血管吻合練習も可能である。